

町の活性化が図れるという思いをデザインさせていたただきました。

株式会社「地域創生」をつくるきっかけは、退職前にまちづくりのモデルとして、アメリカのポートランドの取り組みを知ったことです。ポートランドは、以前は町が衰退して治安も悪い状況だったといいます。



サードカフェの店内

それを立て直そと地域リノベーションしながら、今では全米一住みたい町になつたということです。そのプログラムが有田川町でも参考になるのではないかと。そこで、退職後すぐに町長に会いに行って、ポートランドを手本としたまちづくりを仲間の方々と共に提案させていただきました。

西岡：視察の報告書をネットで見ましたが、三角さんから町に視察を提案されたのですか。

三角：提案する以上、実態も知らないとダメなので、4月に提案させてもらつて8月に視察に行きました。視察は6人で、僕らは自費で行きました。また向こうからも来てくれて、その方々と有田川町の未来について考えるシンポジウムもやりました。

西岡：地域創生の事業と絵本によるまちづくりとは、どんな関係になるのですか。

西岡：ほかに、絵本まちづくり協会としてやつてていることは。

西岡：町にとつて行政のことを理解した上で、民間の立場で具体的な提案をして

一般社団法人 「絵本まちづくり協会」

西岡：地域創生の事業と絵本によるまちづくりとは、どんな関係になるのですか。

西岡：ほんと、絵本まちづくり協会は全体を包括し、絵本に特化したのが絵本まちづくり協会ということになります。

僕は以前教育委員会で、図書館改革をやってきました。図書館でできるまちづくりとか人づくり、子育て支援があると思っていました。絵本でまちづくりをしているところは、北海道剣淵町と富山県射水市くらいで、町全体でやつてているところはほとんどない。子どもが楽しく過ごせて、すぐすく育てるような町になることは、町の活性化につながつて行くし、ここに住みたい人も増えるということだと思います。退職後、民間という立場で、絵本によるまちづくりをやれば面白いと思いやつっています。

西岡：この絵本カフェも取り組みの一つですか。

三角：カフェは、子どもがやかましいとかで子連れで行きにくい所になつてしまふ。絵本があつて、子どもと一緒にゆつくりできる一つのモデルとして、サードカフェを開きました。

西岡：この絵本カフェも取り組みの一つですか。

三角：カフェは、子どもがやかましいとかで子連れで行きにくい所になつてしまふ。絵本があつて、子どもと一緒にゆつくりできる一つのモデルとして、サードカフェを開きました。

西岡：この絵本カフェも取り組みの一つですか。

三角：カフェは、子どもがやかましいとかで子連れで行きにくい所になつてしまふ。絵本があつて、子どもと一緒にゆつくりできる一つのモデルとして、サードカフェを開きました。

貴重な民間からの まちづくり提案

西岡：地域創生の事業と絵本によるまちづくりとは、どんな関係になるのですか。

西岡：ほんと、絵本まちづくり協会は全体を包括し、絵本に特化したのが絵本まちづくり協会ということになります。

西岡：ほんと、絵本まちづくり協会は全体を包括し、絵本に特化したのが絵本まちづくり協会ということになります。



町内におかれている『まちかど絵本箱』



A L E C

くれる人がいるのは貴重ですかね。

三角：僕らは、町内外の有田川町に着目する人に向けて、いろいろな発信をしています。行政にはプラスになつてていると思っています。

絵本によるまちづくりのグランドデザインでは、これをするといい、こうなるといいといった具体的な活動も提案しています。六次産業のグランドデザインは、現状を分析した上で、これからのあるべき六次産業の姿とか、これから一次産業はどうすれば生き残れるのかというようなことを書いています。あとは行政が、民間とも手を組んでやっていくことが大事だと思いま

す。

西岡：A L E C の話を聞かせてください。

三角：旧吉備町には図書室はありましたが図書館がなかつたので図書館をつくりたいと思い、全国の有名で人気のある図書館を調べました。分析してみると、図書館を利用している人は、精々10%から20%でした。何億、何十億円もかけて図書館をつくり、維持費に何億円も使うというのは少し違う。図書館はもつと普通

に使える場所にしないといけないと思っていました。平成17年頃、合併前の旧吉備町がまちづくり交付金事業で、町の縦軸横軸に道をつけ、その真ん中に交流施設をつくることになり、吉備町が担当してほしいという話があり、図書館をつくろうと担当しました。

そこで話ができるようにし、コーヒーも飲めるようにしました。本が汚れるから図書館でコーヒーとか飲まざらあかんという意見もありました。でも、家で読むとき、お茶を飲みながら、カレーを食べながら本を読んでいるかもしれない。家で読む状況を考え、飲食ができるシステムにしました。

図書館はもつともっと自らの力で本来の図書館サービスを展開しなければいけないと思っています。公共の立場でも出来ることは大きいあります。その市町村の持つ地域性と個性を十分に反映しつつ、住民ニーズを的確に把握し、アイデアを出し、知や文化の拠点となる図書館作りをする

のだから図書館は駄目だと言われました。人々が集まるような図書館をつくりたいと思っていたので、交流センターという名前の図書館づくりを始めたというのがスタートです。

西岡：A L E C の話を聞かせてください。

図書館というと静かでないとだめだとか、本好きな人だけが集まるイメージがあります。そこで図書館のタブーを破ろうと思いまして。まず図書館で行ってはいけない飲食や話もできるようになります。普通は、図書館に入ると、司書の方が座っていて、本箱が並んでいるのですが、A L E C は、入るとアプローチが長く続き、今はますが当

地域交流センター 「A L E C」



初はクラシックカーやバイクが並んでいました。本で書館運営を民間委託すると面白いと考えたからです。また、静かにしなくてもよいということが分かるようBGMで音楽を流して、

西岡：最近、全国的にも図書館運営を民間委託するというのが話題になっていますが。

三角：それは、武雄市が一番先に始めた。A L E C は平成21年4月26日に開館しました。武雄市はそれから2年か3年遅れて、本屋さんと一緒に始めたわけですね。僕も武雄市の図書館を見に行きました。図書館には来ていますが、あの施設は私の考える図書館の理想型とは違います。民間委託は否定しませんが、公共の立場でも出来ることは大きいです。

西岡：A L E C の話を聞かせてください。

図書館といふと静かでないとだめだとか、本好きな人だけが集まるイメージがあります。そこで図書館のタブーを破ろうと思いまして。まず図書館で行つてはいけない飲食や話もできるようになります。普通は、図書館に入ると、司書の方が座っていて、本箱が並んでいるのですが、A L E C は、入るとアプローチが長く続き、今はますが当



あらぎ島の近くにオープンした笠松亭

ことが大事じやないかと思
います。安易に民間委託で
はなく、住民に寄り添つた
サービス展開を公の立場で
行うことが使命だと考えま
す。地域交流センター AL
E C H A R I d a g a w a c h o
Lifelong Education Center
の略です。生涯学習の場に
なつてほし」という意味で
決して図書館だけの機能じ

目指している 有田川町の未来

有田川町の未来

らが町はええ町やと大きな
顔をして言えるように、し
かも、ここがいい、あそこ

行政は、企業誘致をして

と発信していければまちづくりができると思つています。

やない。当然商売でもない、住民が気軽に集まれる場所ひと言でいえば、誰もが気軽に利用できる図書館をつくりたかったというのがA L E C です。

自分の住んでいる町を誇れるようにならないと、町の活性化はできない。もつと住み良い町にしたいという意識も生まれてこないと思うのです。取りあえず、お

でもらえるようなまちづくりをしないといけない。絵本まちづくりもそういうことをを目指しています。ふるさとを愛する心とか、自慢できる場所づくりというの

てもらつて、魅力を探つて
もらおうというところから
始めました。有田川町は吉
備・金屋・清水それぞれの
良いところ、違つた持ち味
があるので、それをきちんと

がマチ自慢が出来る人々を増やしたい』ということです。自分の住んでる町を誇れるつてまちづくりの基本中の基本ですから。

東大のあるゼミで先生が学生に聞いて、君の出身地のいいところを3つ挙げてごらんと言うと、なかなか出てこない。ふるさとの本当の魅力を知らない学生が多い。特に東大などに行く人は、小学校の頃から塾へ行き、居住地から遠い私学に行つて、一番多感な時代を私学のまちで過ごすわけで、居住地の子どもたちとも遊んでいない。だから地域の事が分からなくなる。

会へ行くと出身地は帰ってこないという話をよく聞きますが。
三角：和歌山県は、大学や専門学校への進学で、18歳で県を出る率が日本で一番です。理由はいろいろありますが、やる気のある子が出ていってしまうのです。小さい時分から、この町が好きとか、ここがいいって思っていたら、大学へ行つて他府県に行つたとしても、いろいろ見聞きしたことを、ふるさとへフィードバックしたいとか、こうして盛り上げたいとか、働く場所がなくとも自分で起業するとか。そのためには、小さな時からこの町がいいと思つます。

日本は10人は1人が東京に住んでいて、地方が切り捨てられているけれど、ビジネスチャンスはいっぱいある。それを生かすような働きかけをするのがうちらの役割と思っています。

今、有田川町の廃園になつた旧田殿保育所を管理させていただいて、起業する人たちを募集したり、シェアオフィスで、新しく起業する取り組みも、地域創生としてやっています。また田舎の原風景、ほかにはない魅力がある清水で、築150年の古民家をリノベーションして8月から宿泊施設「笠松亭」を始めました。一棟貸しで、まず来

は人材の問題です。予算とい
人材というのは、大変厳し
いところですね。その点、
行政のできることがたくさ
んある。そういう頑張りを
行政ができれば、もっと良
くなると思います。

今まで全国の中で最下位
とも言っていた島根県、
鳥取県、佐賀県などは、ま
ちづくりがすごく盛んにな
っています。危機感がすご
く強く、まちづくりの取り
組みに必死なように思いま
す。少しでも地域がまちづ
くりを考えていかないと難
しい状況にあると思います
がどうございました。

西岡：本日は、貴重なお話
を聞かせていただき、あり

保育にかかる人たちの声を聞いて(前編)

一切実な保活経験者の声と保育関係者の声—



満留澄子氏

新日本婦人の会和歌山県本部 満留澄子

今回は、2018年10月7日に和歌山市で開催された第8回わかやま住民要求研究集会の第1分科会で報告された、和歌山市での保育に関する取り組みについて、新日本婦人の会和歌山県本部の満留澄子さんに寄稿していただきました。なお、この報告は2回の連載になります。

私は、和歌山市に住んでいます。小6、小4、3歳の保育園児の子どもがいます。

長男が年長の頃から保育運動をしてきましたが、「子ども子育て支援新制度」によって、和歌山市でも官から民への動きが現われ、34の公立園を16のこども園に集約する動きを感じてきました。

保活経験者の声

3年前娘が生まれた年、待機児童が全国的に問題になり「保育園おちた。日本死ね」のFBをキッカケに親御さんの想いは爆発。和

制度が1年あるのに、1歳での途中入所は難しく、0歳のうちに入園しないといけない。」といった保活の大変さだけでなく、「子ども園に見学に行つたが大規模で、先生が子ども達全員を把握することは無理があるように感じた。」「市が発信する保活の情報が少ない。」「就学前の子どもたちの育ちは大切なものの年に、保育が軽んじられているようを感じる現実がとても悲しい。」と言った声もあります。

事前アンケートの方には「保育が好き、子どもが好き、でも過酷な労働のわりに待遇が低く、続けられない。」という保育士さんからのリアルな声も。子育て待機児童をゼロにするよう担当課に命じるそうですが、それを受けて担当課は民間保育園に定員を広げるよう働きかけ、民間保育園は加配が必要になる障害児や、達障害の疑いがある子どもを受け入れたがらなくなり、



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」

保育関係者の声

参加者からは、「入れたければ第5希望まで書いておいてと言われた。」「育休

行き場がなくなつた子どもたちは、公立保育園にいきます。行政が公立保育園の充足率の低さを理由に民営化していくますが、早朝保育や延長保育などのサービスを、民間保育園に合わせて向上することを怠つてき



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



3月28日「保育園!!!私たち声を上げます!」



『保育園!!!私たち声を上げます!2018』

「4月から仕事やのに、保育園まだ決まってない…」

「決まったけど希望する園はアカンかった。」

「保留って…。職場復帰は保留できやん！」

「上の子と下の子で別々の保育園にならなくて大変！」

「まだ預けたくないけど途中入所は難しいって聞いたから保活した。」



今年もすでにこんな声が聞こえてきています。全国的に問題となっている保育園不足がこの和歌山市でも。

東京では、「なによりも子どもを大切にできる保育園を」記者会見＆ミーティング(2/22)が行われ、「保育所ふやして!」「よりよい保育を!」と、当事者であるお父さん、お母さん、保育士たちが国会に声を届けています。

昨年私たちは、弁護士さんを招いて「不服審査請求(困っているのにどうしてダメなの?と尋ねる為の書類)の書き方講座」を開きました。今年は、保育所入所に関する皆さんの疑問、悩み、本音を聞ける場をつくり、弁護士、保健師、保育士、市会議員の皆さんにも直接アドバイスをもらったり、交流に参加してもらえるようはたらきかけているところです。

是非とも多くの当事者(保活経験者、一緒に悩んでるおばあちゃんも)に知りたい企画だと考えておりますので、SNSでの拡散、お知り合いに当たっていただくなど、広く呼びかけをお願いします!

日時：2018年3月17日(土)、28日(水)
9:30open 11:30close
場所：勤労者総合センター 3F和室1(和歌山市西汀町34)
主催：新日本婦人の会和歌山県本部 TEL/FAX 073-424-5803
(新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです)

保育のニーズや、子どもへの行き届いた保育、教育、療育を受ける権利を阻害されています。待機児童が減らない。保育士がたりない。というのであれば、少子化を見越した15年計画を早急に実現してほしいと思います。

に見直し、閉園した園舎で乳児保育を補い、保育士の待遇改善を独自にすることでも、今困っている保護者や子ども達のために、本当の子育て日本一の和歌山市を実現してほしいと思います。

「保育園!!!私たち声を上げます!2018」呼びかけチラシ

「保育園!!!私たち声を上げます!2018」で交流されたおしゃべりの中から

開催日 2018.3.17と28の2回
主催 新日本婦人の会和歌山県本部

「秋生まれは4月の入園を待つことが当然」という保育所探しの常識を全く知らないかった。

上の子の同級生のママ、下の子生まれて(1歳)上の子が通った園にまた入りたくて4月入所で申請したけどダメだった。自業だからかなあ、もう1年待つって。

ここ数年で保育や児童の環境が悪化して、社会のゆとりがなくなっているということでしょうか。

小学校はみんな入れるのにその前は競争?という連和感がある。

準備費用が公立では5000円、私立では2~3万円。こども園の幼稚園部を行ったらどうなるのか。ぐるんばとかに行ってれば情報交換ができるけど、情報量がたりない。他府県から引っ越ししてきた友達、今は夫の給料だけでやっているけど来年には働きたいと言っていた。情報量が少なくてとても困っていた。

仕事に就けない、結婚できない、出産なんて無理、そういう状況の人をないがしろにしている社会。見えないことになっている社会は不健全。

今の保育制度は、子育てしている人にとって使いづらいシステムになっていると思います。

ある保育園に見学に行ったら、「うちではベンズ留学も音楽も英語もやってます。幼稚園に負けません!」ってすごくアピールされた。それにかかる費用の問題もあるし、「うの子にそれは受けさせません」と言った場合どうなりますか?と聞くと、「別室で受けない子だけ保育をします」と。ここで格差を感じないといけないのはダメだと思ふ。

市立から子ども園になって、急に制作の時間のこいのぼりの材料費まで集金されることになったところがある。お金がなければ1人だけこいのぼりもなし。

子どもが小さい頃、看護師をしていました。夜勤があるので民間保育園と院内保育所で二重保育でした。第一希望落ちた時点で待機児童だと思。

ダンスや英語など習えます、園の外で2歳以上習い事をさせないといけないという園があると聞いた。

子どもを預かってもらえたらしいや。なんて本気で思っている親はいないと思う。

市は公立の保育園を減らすだけ対策をとっていないように思う。

大規模園よりも、先生も他のクラスの子も名前がわかるような園を希望している。

保育の必要量をポイントで計算するというが、保育所に入る前にポイントを稼ぐというのは、棒を取り合ってするだけ根本的な解決にならない。

市政がもっと子育てに力をとすをまわして子どもの目標に立ったものになってほしいです。

今後、第二子も保育料無料を検討していると聞くし、預けたい親がふえる→受け皿が足りない→保育士も足りない、となるよう、保育士の待遇改善なども一体に進めさせてもらおうと思う。

兄弟別々だと、迎送も大変だけど、運動会や発表会が重なったらどちらかに我慢をさせたり午前と午後分けてバタバタしたりしないといけない。

生活のかたちが変化することを想定して、使える制度にならと思います。

みんなが諦める、産みたくなる社会にならいいと思います。

子どもを母親が1人でずっと見るのは不可能だと思う。子どもにとっても保育園に入れるのが幸せだと思う。だからこそ保育の質を高めてほしい。

以前フランス人のお父さんが、「フランスでは保育料なし、おむつ、エプロン、コップを持って行くのなら日本はおかしいと思う」と言ってたのが衝撃的だった。フランスでは出生率増えている。

紀の川市の保育園は空きがあるよ。市の負担で民間幼稚園も第3子無料。償還払いで年度末に返金。償還払いなし、れば何も負担はない。

見学に行ったマンモス園。シャツを着ている子もいるが、オムツ一枚で保育しているの?「なんですか?」と聞くと「ズボンのお洗濯増えるとお母さん大変じゃないですか~」と、12歳の子を見ている若い先生が腰を組んで立って子どもたちが遊んでるのを眺めているだけという様子を目にして候補から外した。

仕事上小さい子をもつお母さんと出会うが、仕事復帰を考えているお母さんから「保育園に入れるか」「0、1歳児で入所したい」など相談を受けることが増えた。

上の子が保育園に入っていても、働くには1歳半過ぎると出ないといけないくらい、1歳で復帰の人が多い。保育制度は3年あるのに、保育園に入ってられないから1年や1年半で復帰せざるを得ず。制度があるのに便利にならないで困っている人も多い。

質の良い保育園をもっと増やしてほしい。
人気のある園といな園があるところ市役所でわかると思う。「あなたの園はこうしたらもっと良くなると思いますよ」と助言したくてほしい。

保育所の数が足りていない。保育士の環境問題。社会全体で取り組まないと(考えていかないと)いけないと思う。

母子手帳交付のときにどれくらい保育の枠を確保しないといけないか市役所でわかるはず。対策をとってほしい。

女性の働き方として、フルタイムとパートがあるが、女性の地位向上を考える、自分はフルで働きたい。3人の子ども全員が小学校に入ったらフルタイムで働きたい。
今長男は学童だけど、それもよく思っていない。よい環境をどこでも作ってほしい。

「保育園!!!私たち声を上げます!2018」で出された意見

「限界」集落からの挑戦

—古座川町七川地区の事例—



湯崎真梨子氏

和歌山大学食農総合研究所客員教授 湯崎 真梨子

これは2018年10月7日に和歌山市で開催された第8回わかやま住民要求研究集会の第4分科会で報告されたものをまとめて寄稿していただきました。

報告者の湯崎氏は、元和歌山大学教授で、専門は農村社会学、地域再生学です。また自らの研究に加え、地域と協働するプロジェクト研究をマネジメントされています。

高齢化と限界集落

農山村地域などの過疎高齢化の進行がとまらない。我が国でこの課題が広く一

般に認識されたのは「限界集落」という言葉の登場による。「限界集落」とは、過疎化などで人口の50%以上が65歳以上の高齢者になり、冠婚葬祭や寺社、水路の管理など社会的共同生活の維持が困難になりつつある集落を指す。1991年

に社会学者が示した概念で、老人夫婦世帯や独居老人世帯で構成され、担い手はいなく、やがて人口が0になり「消滅集落」に至るといふものである。

日本の高齢化率は27・7%（2017年10月現在）、和歌山県は31・5%（2018年1月現在）。そして、和歌山県の最高齢化率自治体は古座川町の52・0%、本項が対象とする古座川町七川（しちかわ）地区は特に高齢化が著しい地区である。

七川（しちかわ）は、古座川上流域とその支流、添野川、平井川、成川流域に位置する松根、西川、成川、下露、平井、添野川、佐田の7地区を指す。

この七川が立地するエリアを古くは七川谷郷といい、北西の端は大塔山系に至り、最奥の地区は松根だが、これより先は「人跡も絶えて知る人もない」と紀伊続風土記は書いている。古座川で有名なニホンミツバチの蜂蜜は、特に松根の蜂蜜が上質とされ江戸時代には「熊野蜜」として全国に名だたるブランドだつた。

七川は林産物や養蚕、林業、製炭などで熊野の産業の一翼を担い、大正時代には人口が3500人を超えていた。しかし、現在の人口は、7地区合計で446人（2015年）、高齢化率が71・5%。しかも人口の2割近くが85才以上でその多くは独り暮らしという超高齢、超過疎である。この先は人口の自然減少しかなく、先の概念に従えば、集落が消滅するのは時間の問題ということになる。

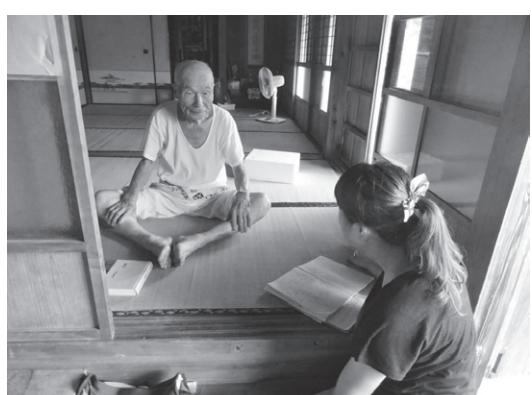
しかし、そうであろうか。限界から消滅へのシナリオを止めるために、限界集落が取り組みはじめた挑戦に

ついて七川地区を事例に報告したい。

サクラと希望

2018年11月、「七川

地域の活性化と、地区住民が生きがいを持って明るく健康的な生活を送る環境を創り、次の世代に持続可能な地域を継承する」ことを目的に七川地区ふるさとづくり協議会が発足した。平井地区の農事組合法人古座川ゆず平井の里（以下平井の里）の呼びかけに七地区的区長らが参集したものである。各地区的過疎化は深刻で、区単位の取り組みで



聞き取り調査



元商店の空き家に開いた七川ふるさとづくり協議会事務所と運営を担う地域おこし協力隊員

は衰退するばかりである、昔のように七川谷郷が一丸となつて苦境を脱しよう、という主旨であつた。

まず、資金を得るために和歌山県過疎対策事業をめざすこととし、事業を具体化するためには地域の現状と要求を把握する必要があつた。そこで、平井の里や近年配置された地域おこし協力隊員などを中心に7地区の区長や住民への聞き取り調査を行い、課題や住民の思い、自分たちでできることの方向性の整理を行う

大生、地域おこし協力隊員など、約50軒を訪問し聞き取り調査を開始した。聞き取り後は沢山の本音や要望がつまつた調査データを分析し、その結果を住民や町と共有するために調査報告会を実施した。



調査報告会

これは、聞き取り調査、課題や思いの分析、報告会による課題と願いの共有化、取り組む方向の合意形成、そして皆で主体的な活動を創り出すという地域づくりに必要なプロセスを丁寧に踏んだものであつた。

聞き取り調査からは、生活上のさまざまな不便に加え、「クマノザクラ」というキーワードが浮上した。2018年3月、紀伊半島南部に群生する野生のサクラが100年ぶりの新種であると森林総合研究所から命名された。このニュースが七川の人々の心を動かし

こととした。調査チームは平井の里理事、平井の里と長年のパートナーシップを形成している紀の川農協職員やインターンシップの和大生、地域おこし協力隊員などで、約50軒を訪問し聞き取り調査を開始した。聞き取り後は沢山の本音や要望がつまつた調査データを分析し、その結果を住民や町と共有するために調査報告会を実施した。

これは、聞き取り調査、課題や思いの分析、報告会による課題と願いの共有化、取り組む方向の合意形成、そして皆で主体的な活動を創り出すという地域づくりに必要なプロセスを丁寧に踏んだものであつた。

2. 車の運転が困難な高齢者が増加し、買い物難民の増加→買い物支援バスの試験運用と最適な運営方法の確立。

3. 人口減少、高齢化による地域力の低下→若者移入の渦中にいる住民に「ふるさと」という場の再確認を通してアイデンティティの再確立をすることで、その先に生まれる希望を次世代につなぐ方向性、といえる。そのわかりやすいキーワードが、クマノザ克拉であつた。

豊かな生業を育んだ古座川の河畔に鮮やかに咲き誇るサ克拉は彼らのアイデンティティでもあつた。故郷を誇る自尊の基盤であつた。それが近年老朽化、倒木が目につき寂れてきた・・・。クマノザ克拉は、それに代わる新しい希望だつた。住民が立ち上がり始めた地域づくり

たのである。聞き取り調査から得られた課題と今後の方向性の概要是次のようなものであつた。

1. 七川ダムを開む約3000本の桜の名所が、桜の老朽化により魅力が低下→クマノザ克拉の育成を通じて新たな名所づくりをしよう。将来的にはサクラを活かした産業の創出。
2. 車の運転が困難な高齢者が増加し、買い物難民の増加→買い物支援バスの試験運用と最適な運営方法の確立。
3. 人口減少、高齢化による地域力の低下→若者移入の渦中にいる住民に「ふるさと」という場の再確認を通してアイデンティティの再確立をすることで、その先に生まれる希望を次世代につなぐ方向性、といえる。そのわかりやすいキーワードが、クマノザ克拉であつた。

地域が続くという希望にちがいない。希望の取り戻しが、地域づくりの出発点だといえるのである。

今夏、街道の空き家を改裝して七川ふるさとづくり協議会の事務所がオープンした。七川の地域づくり運動は、次世代に地域をつなぐという希望をもつて、今始まつたばかりである。



平井地区では住民や学生をまきこんだ耕作放棄地再生活動も行っている